

# 中津市民病院 肝胆膵外科のご紹介



外科部長  
永田 茂行

# はじめに

平素より先生方には貴重な症例をご紹介頂きまして ありがとうございます。当院外科では、食道・胃・大腸・肝臓・胆道・膵臓を中心とした消化器癌および肺癌、乳癌に対して加療を行っております。腹腔鏡や胸腔鏡を用いた鏡視下手術を含めた外科手術のみならず、化学療法や放射線療法など癌の集学的治療を行っております。

当院には肝臓内科・膵臓内科の専門医がそろっており、まさに肝胆膵疾患の加療を行うには絶好の環境といえます。私の専門領域の経験を活かして中津市民及び大分県北地域の医療に微力ながら貢献できることを願っています。

皆様のお力添えを何卒よろしくお願い申し上げます。

## 【自己紹介】

私は平成10年に医師となり、九州大学第二外科に入局しました。教室では肝移植の研究に携わりました。

2009年に英国のKings College Hospitalの肝移植・肝胆膵外科に臨床留学し、肝移植を中心に肝胆膵外科の研鑽を積みました。

その後、飯塚病院、福岡市民病院、大分医療センターなどで肝胆膵外科医として勤務しました。

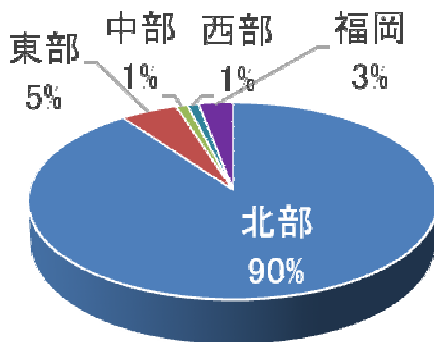
2016年4月より中津市民病院に外科部長として勤務しています。



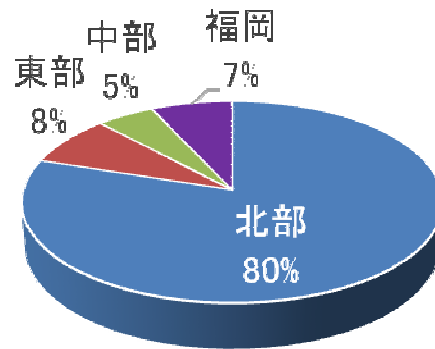
日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医  
日本消化器病学会消化器病専門医  
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医  
日本肝臓学会認定肝臓専門医 日本静脈経腸栄養学会認定医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

# 大分県北部医療圏の 入院医療完結率

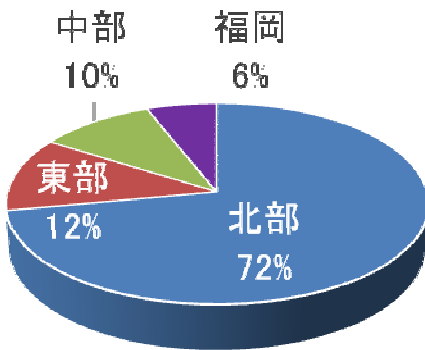
## 救急疾患



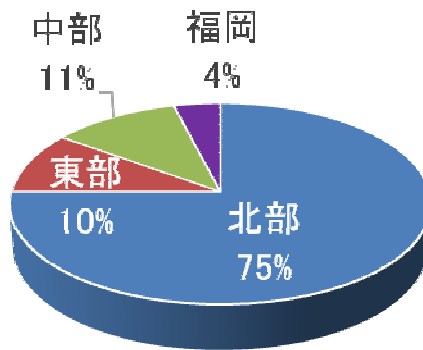
## 胃癌/大腸癌



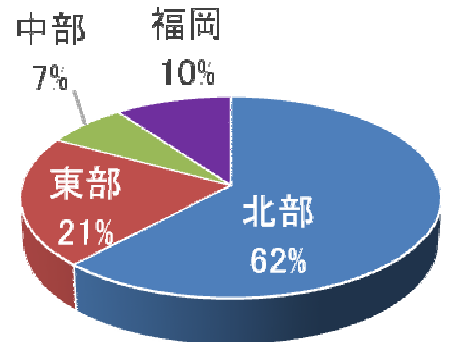
## 肝癌



## 乳癌



## 肺癌

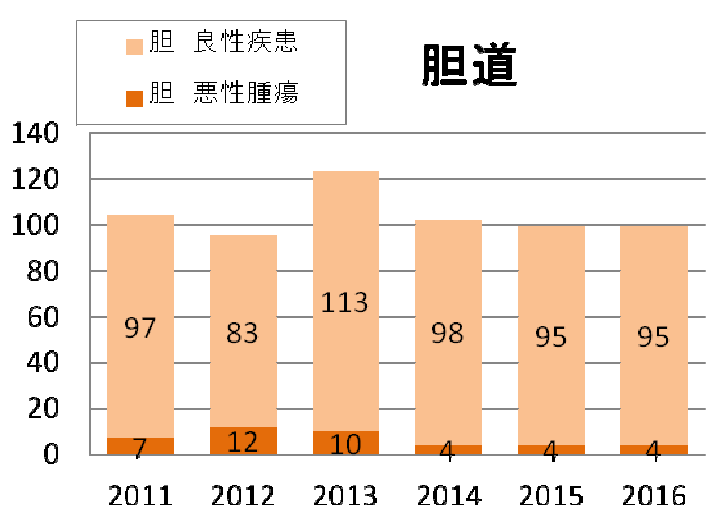
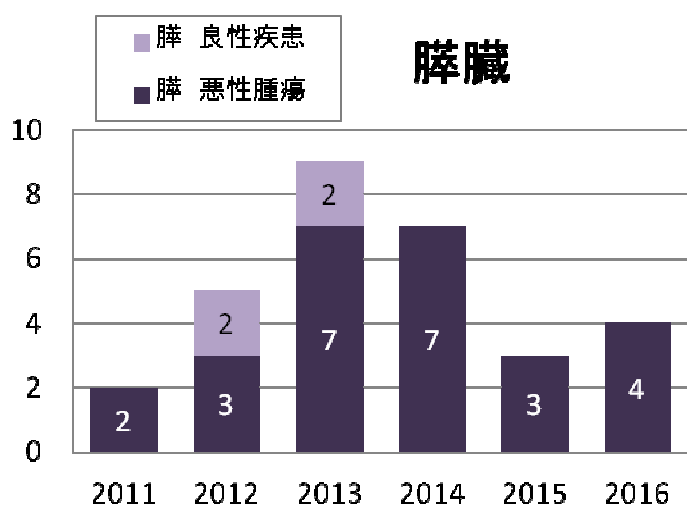
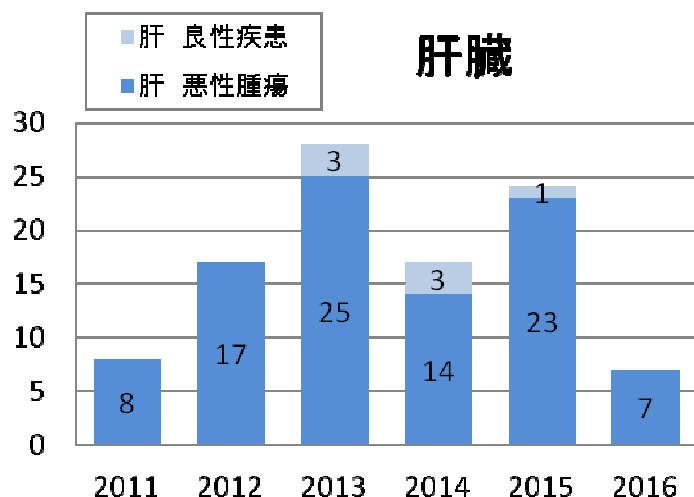
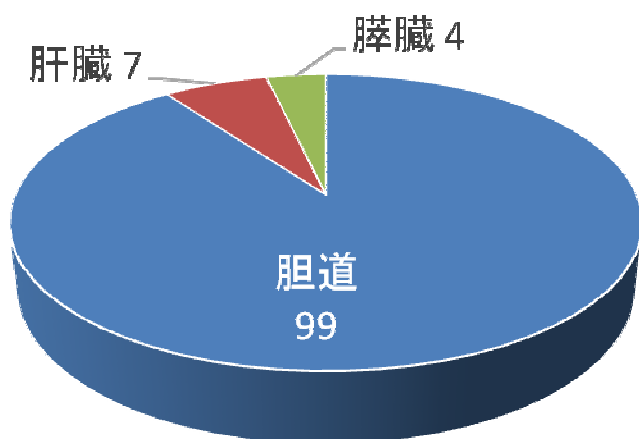


厚労省「平成27年度版医療計画作成支援データブック」より

北部医療圏の入院医療完結率をみますと、救急医療の90%、胃癌や大腸癌の80%が地域で完結できていますが、肝臓癌や乳癌では70%台、肺癌では60%台に留まっています。当院は大分県がん診療連携拠点病院であり、これらの領域についても今後さらに地域完結型医療を推進していきたいと考えています。

# 当科の肝胆膵手術件数

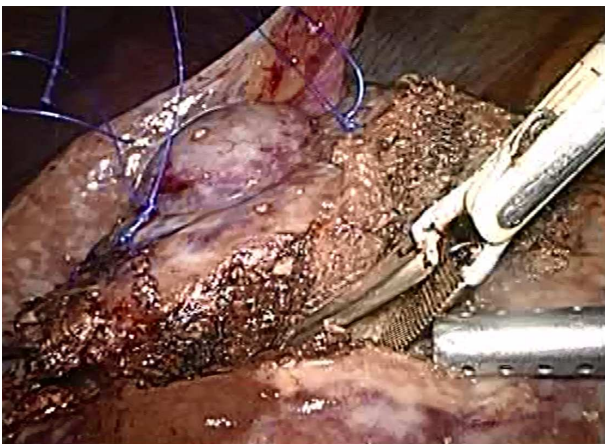
2016年手術件数



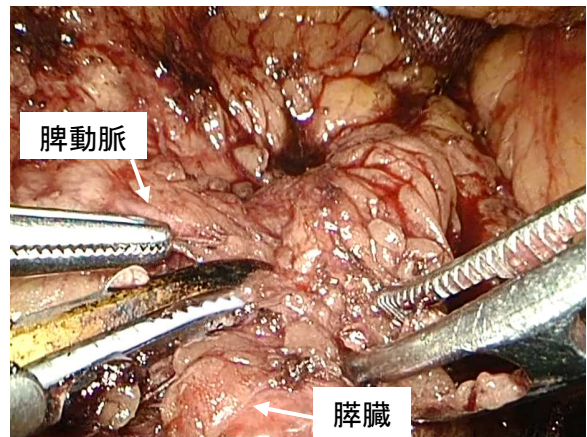
当科では年間100件以上の肝胆膵手術を施行しています。肝臓や膵臓には悪性腫瘍が多いのですが、胆道系は胆嚢結石などの良性疾患が殆どです。肝癌、膵癌、胆道癌の手術症例がありましたら、当院にご紹介をいただければ幸いです。

# 新しい手技の導入

最近では 適応に応じて肝胆膵領域に対する  
腹腔鏡下手術も導入しています。

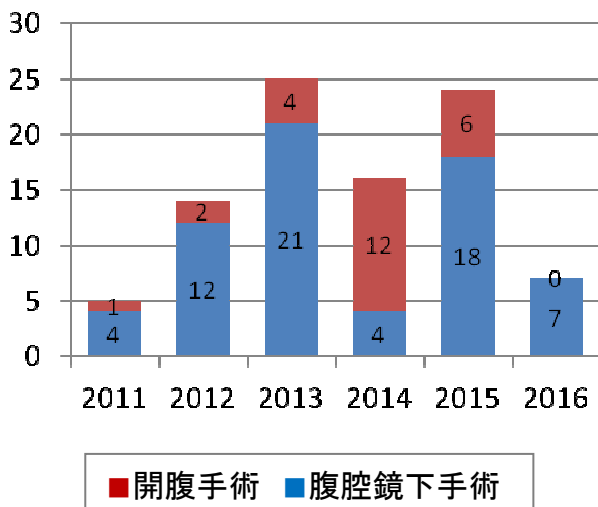


腹腔鏡下肝部分切除術

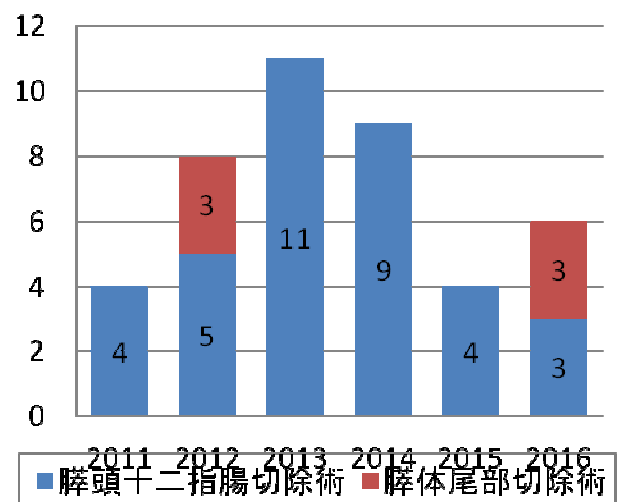


腹腔鏡下膵体尾部切除術  
(脾温存)

## 肝切除術内訳



## 膵切除術内訳

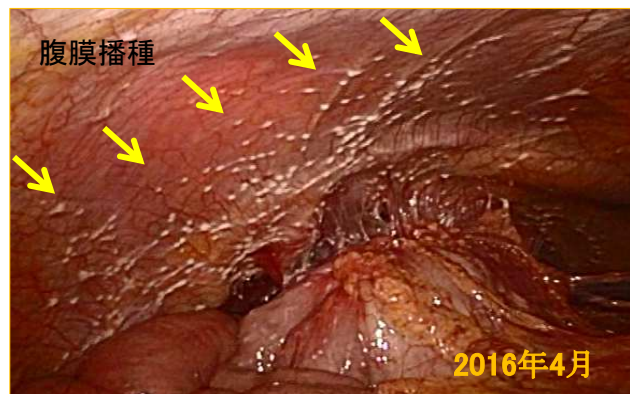
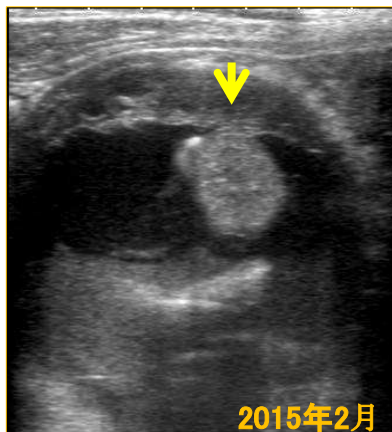
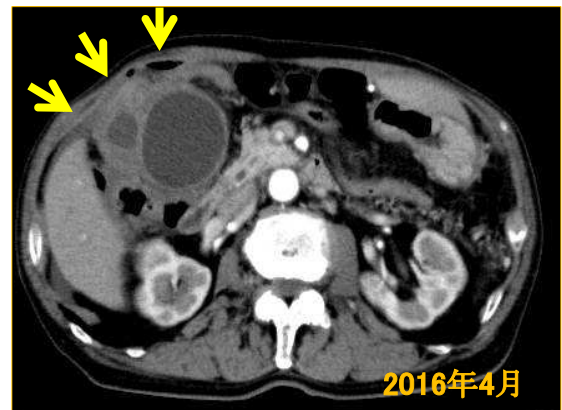
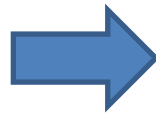
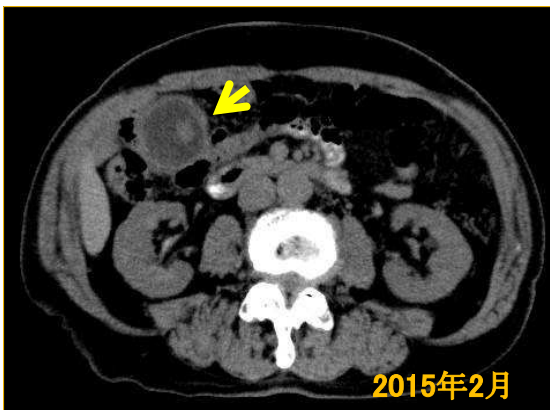




# 症例呈示

## 【症例】 89歳 男性

1年前に腹部エコー検査で11mmの胆嚢ポリープを指摘された。癌の可能性を考慮して手術を勧めたが、無症状のため手術を希望しなかった。1年後に発熱で来院。精査の結果、胆嚢癌による胆嚢炎と診断された。手術を施行したが、腹膜播種のため切除不能な状態であった。



超音波検査で胆嚢ポリープの大きさが10mm以下であれば癌の可能性は6%, 10mm超で24%, 15mm超で61%と報告されています。本症例のように10mmを超えるポリープや増大傾向にある場合は手術適応と考えられます。

胆嚢癌は予後不良であり、胆嚢ポリープは決して軽視できない疾患でありますので、早めのご相談をお願いします。

# 主な業績

## 【論文】

1. Nagata S, Harimoto N, Kajiyama K. Primary hepatic mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma: a case report and literature review. *Surgical Case Reports*. 1:87. 2015.
2. Nagata S, Shirabe K, Sugimachi K, Ikegami T, Yoshizumi T, Uchiyama H, Yamashita Y, Saeki H, Kawanaka H, Mimori K, Watanabe M, Gion T, Soejima Y, Ikeda T, Tsujitani S, Maehara Y. Pilot study of preoperative immunonutrition in living donor liver transplantation donors. *Fukuoka Igaku Zasshi*. 104(12):530-8. 2013.
3. 永田茂行、平山佳愛、由茅隆文、播本憲史、梶山 潔 腹腔鏡下胆嚢摘出術における手術のQualityと外科医教育のバランスについての検討 *日本外科系連合学会誌* 38(2):247-251, 2013.
4. 永田茂行、吉田康洋、松田裕之、武富紹信、調 憲、前原喜彦 英国King's College Hospitalにおける肝移植の臨床経験 *日本外科学会雑誌*112(2):150-153, 2011
5. Nagata S, Ikegami T, Takeishi K, Toshima T, Sugimachi K, Gion T, Soejima Y, Taketomi A, Maehara Y. Acute biliary obstruction due to a large intracholedochal hematoma after living-donor liver transplantation: Report of a case. *Surg Today*. 40(5): 474-476, 2010.
6. Nagata S, Ueda N, Yoshida Y, Matsuda H. Pneumatosis coli complicated with intussusception in an adult: report of a case. *Surg Today*. 40(5): 460-464, 2010.
7. Nagata S, Ueda N, Yoshida Y, Matsuda H, Maehara Y. Severe interstitial pneumonitis associated with the administration of taxanes. *J Infect Chemother*. 16(5): 340-344, 2010.
8. Nagata S, Fukuzawa K, Iwashita Y, Kabashima A, Kinoshita T, Wakasugi K, Maehara Y. Comparison of enteral nutrition with combined enteral and parenteral nutrition in postpancreaticoduodenectomy patients: a pilot study. *Nutr J*. 11(8): 24, 2009.
9. Nagata S, Shimada M, Soejima Y, Nishizaki T, Yoshizumi T, Maehara Y. Adult-to-adult living donor liver transplantation in severe portosystemic shunt cases. *Hepatogastroenterology*. 55 (82-83): 666-669, 2008.
10. Nagata S, Aishima S, Fukuzawa K, Takagi H, Yonemasu H, Iwashita Y, Kinoshita T, Wakasugi K. Adenomatoid tumour of the liver. *J Clin Pathol*. 61(6): 777-780, 2008.
11. Nagata S, Nishimura A, Iwashita Y, Kinoshita T, Fukuzawa K, Tashiro H, Wakasugi K. Primary breast lymphoma in the right breast during treatment for left breast cancer. *World J. Surg. Oncol*. 26 (5): 134, 2007.
12. Nagata S, Okano S, Yonemitsu Y, Nakagawa K, Tomita Y, Yoshikai Y, Shimada M, Maehara Y, Sueishi K. Critical roles of memory T cells and antidonor immunoglobulin in rejection of allogeneic bone marrow cells in sensitized recipient mice. *Transplantation* 82 (5): 689-698, 2006.

## 【学会発表】

1. 第32回日本静脈経腸栄養学会(2017年2月23日～2月24日、岡山市)  
一般演題 肝線維化予測として予後栄養指数(PNI)の有用性に関する検討  
永田茂行、草野 徹、甲斐成一郎、折田博之、是永大輔、山本一郎
2. 第29回日本内視鏡外科学会(2016年12月8日～12月10日、横浜市)  
一般演題 Non-fixation TEP法の有用性についての検討  
永田茂行、草野 徹、甲斐成一郎、折田博之、是永大輔
3. 第71回日本消化器外科学会(2016年7月14日～7月16日、徳島市)  
ポスター 当院における治癒切除不能な膵癌に対するFOLFIRINOX療法の使用経験  
永田茂行、倉光正太郎、的野る美、杉田 諭、高祖英典、黒田陽介、田原光一郎、穴井秀明
4. 第113回日本外科学会(2013年4月11日～4月13日、福岡市)  
一般演題 肝癌術後合併症予測における術前予後栄養指数の有用性に関する検討  
永田茂行、内山秀明、橋本健吉、川中博文、立石雅宏、是永大輔、竹中賢治
5. 第74回日本臨床外科学会(2012年11月29日～12月1日、東京)  
デジタルポスター 繰り返す胆管炎を呈し診断に難渋した胆道-腸管ろうの2例  
永田茂行、内山秀明、橋本健吉、川中博文、立石雅宏、是永大輔、竹中賢治